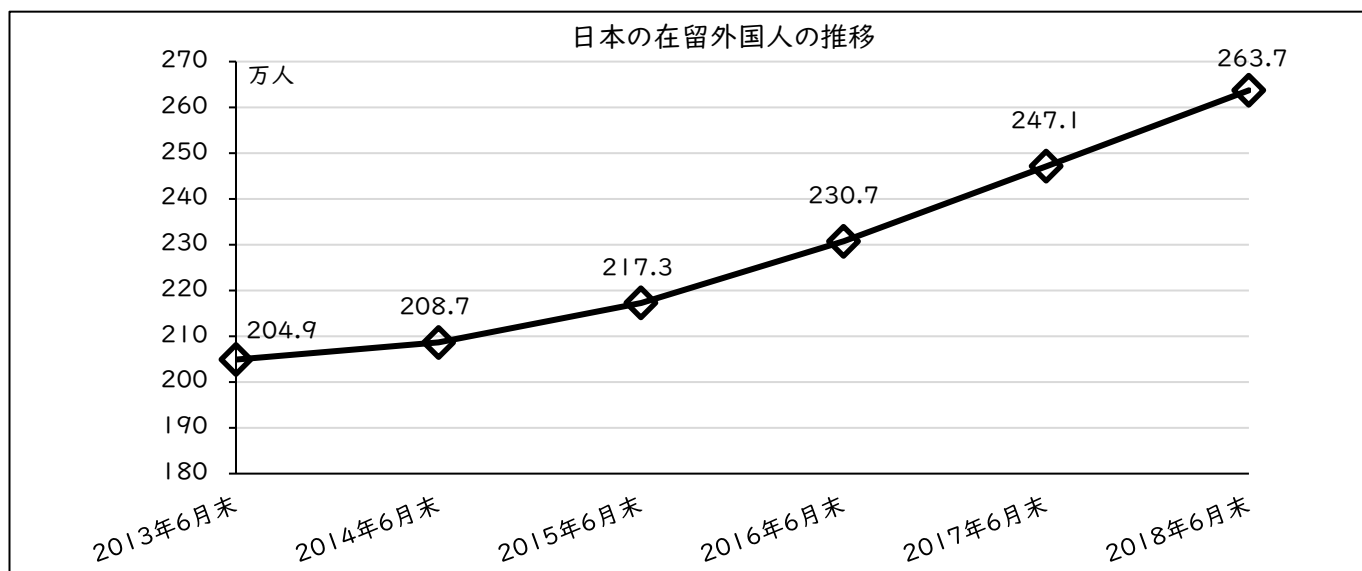


日本国内の在留外国人は過去最高を更新

日本に在留する外国人は、2018年6月末時点で263万人となり、前年を16.6万人上回り、現在、過去最高を更新している状況です。わが国では今年4月から改正入管法の施行により外国人材の受入れが拡大されることから、当面は増加傾向が続くと予想されます。

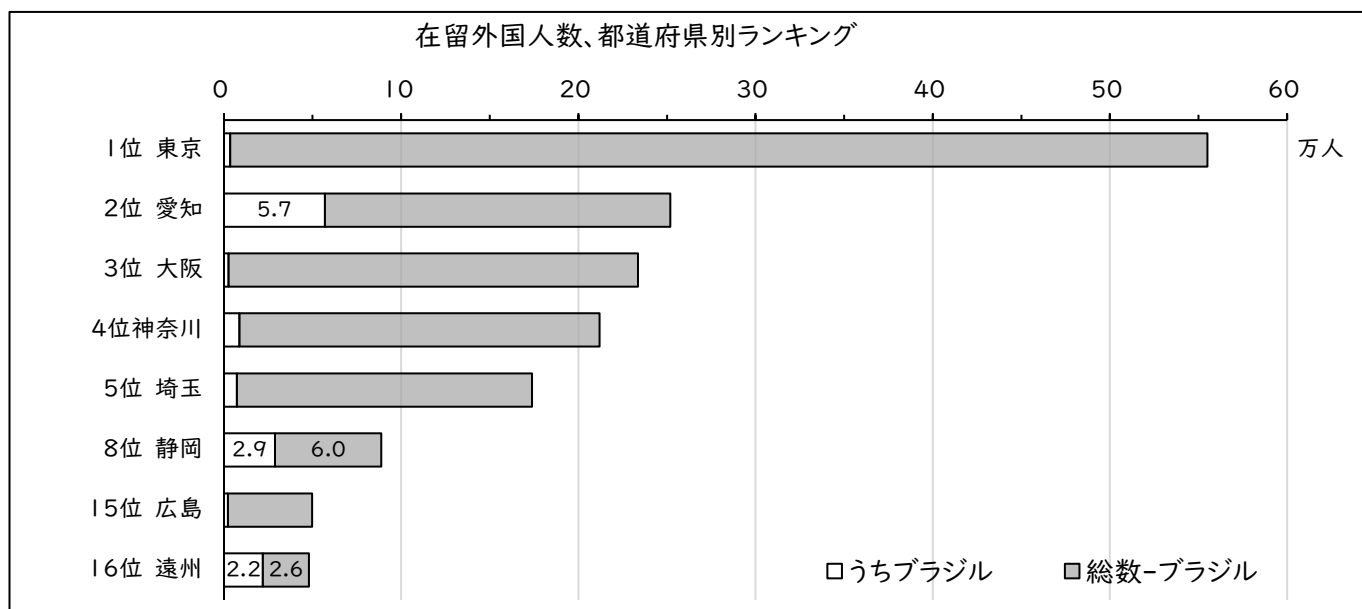
遠州地域においても同様に外国人の増加が予想され、今まで以上に外国人住民との共生が重要となってきます。



遠州地域の在留外国人

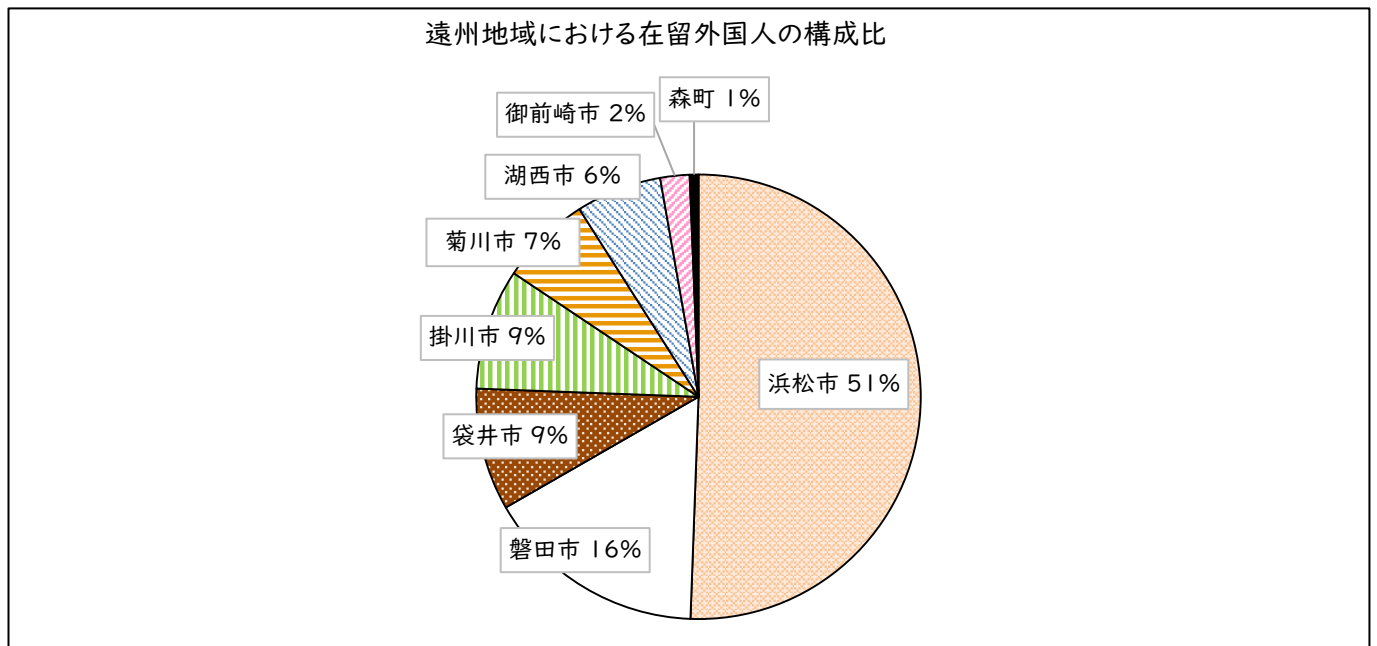
2018年6月末時点の遠州地域に在留する外国人は4.8万人です。静岡県は8.9万人で全国8位ですが、遠州地域を単独の県とみなし、47都道府県の中に位置づけた場合、遠州地域は広島県に次いで16位の規模を誇ります。

また、遠州地域におけるブラジル人は2.2万人です。遠州地域は在留外国人に占めるブラジル人の割合が高いのですが、これも遠州地域を単独の県とみなし、47都道府県の中に位置づけた場合、遠州地域は愛知県、静岡県に次いで3位となります。浜松市では1990年代以降の在留外国人の急増を受け、浜松市の呼びかけによる他市との連携や、市多文化共生センター、市外国人学習支援センターの設立など、さまざまな多文化共生施策に取り組んできました。



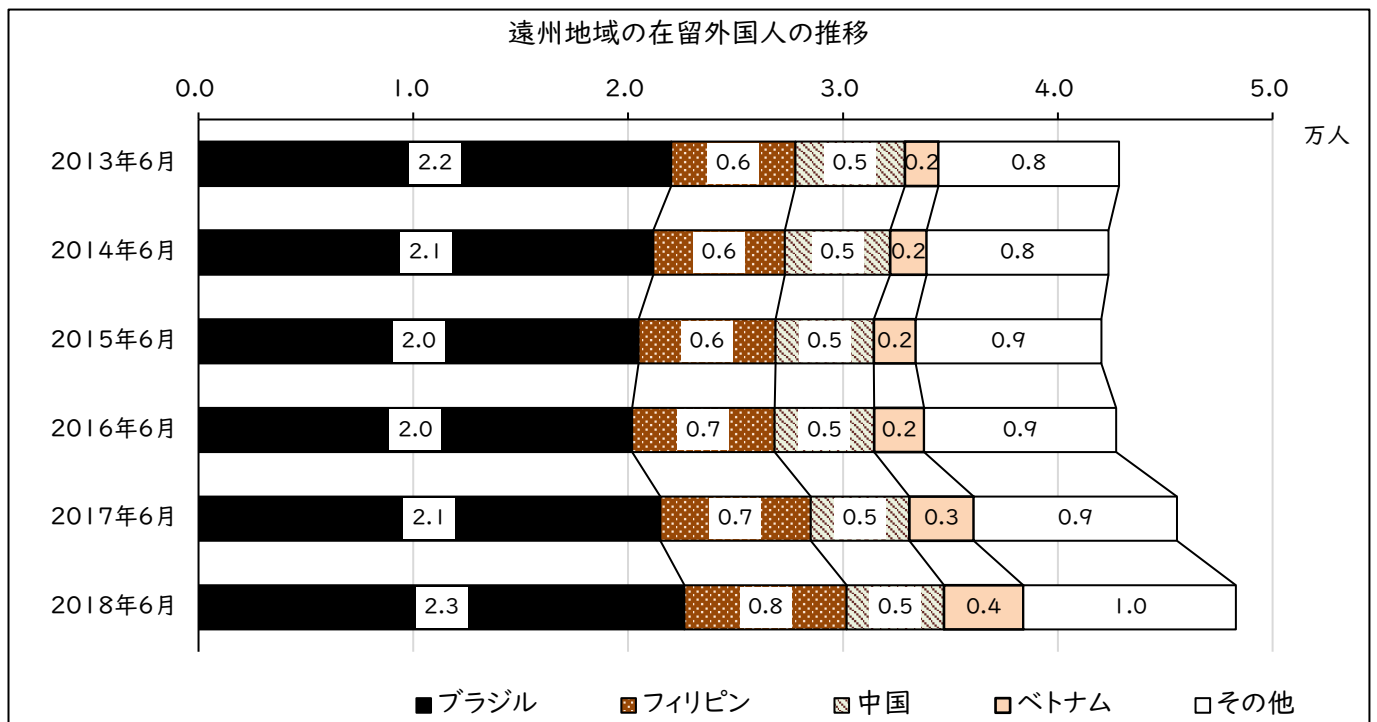
遠州地域における在留外国人

2018年6月末時点の遠州地域に在留する外国人の居住地をみると、浜松市が2.4万人と最も多く、遠州地域全体の51%を占めます。次いで多いのが磐田市の77百人で16%、3番目以降の構成比は以下の通りとなっています。



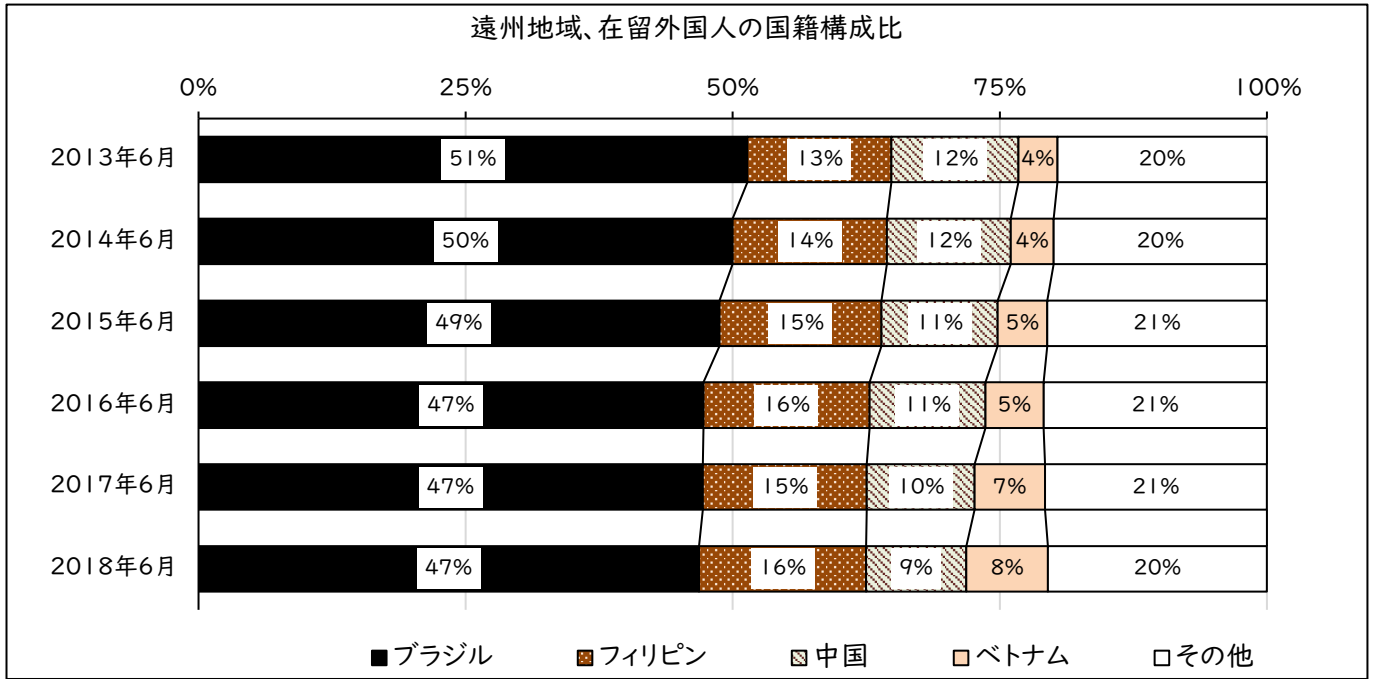
時系列による遠州地域の在留外国人人口をみると、2014年と2015年に前年比で減少がみられましたが、2016年以降は増加が続いています。しかも、2017年と2018年においては2千人以上の増加となっています。

国籍別で2018年を2013年と比較すると、ベトナム人の増加が最も大きく21百人の増加、次いでフィリピン人の17百人の増加、その他の14百人の増加となっていますが、中国人は5百人の減少となっています。



遠州地域における在留外国人の構成比

遠州地域における在留外国人の国籍別構成比をみると、ブラジル人が最も多く、直近では47%となっており、在留外国人のうちの約半数をブラジル人が占める状況です。ただし、構成比ではブラジル人は2013年と比べ4ポイント低下しています。ブラジル人は2013年比で6百人増えているのですが、それ以上に他の国籍の外国人が増えています。近年ではベトナム人が倍増し、フィリピン人も増加していることが分かります。



遠州地域における在留外国人、日本国内と静岡県との比較

遠州地域は在留外国人に占めるブラジル人の割合が47%と約半数を占めます。日本全体、静岡県の国籍別構成比はどうでしょうか。比較してみると、日本全体では中国人が最も多く全体の28%を、静岡県ではブラジル人が最も多く全体の32%を占めます。静岡県および遠州地域ではブラジル人の割合が多いのが特徴ですが、静岡県と遠州地域を分けてみると、静岡県のブラジル人2.8万人のうち遠州地域で2.4万人を占めており、ブラジル人が遠州地域に集中していることが分かります。(法務省「在留外国人統計」を基に作成しました)

